

令和6年10月18日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-GlobaI） 令和6年度新規採択課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-GlobaI）における令和6年度の新規課題6件を決定しました（別紙）。

本プログラムは、大学等発の技術シーズを核にして、社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルのあるディープテック・スタートアップの創出を目的とします。この目的を達成するため、技術シーズの事業開発に責任を有する事業化推進機関および研究開発に責任を有する研究代表者が共同代表者となり、事業化推進機関のプロジェクトマネジメントの下に事業化マイルストーンおよび研究開発マイルストーンを設定し、両者が一体的に課題を推進します（参考）。

本年度は令和6年4月16日（火）から7月17日（水）まで提案募集を行ったところ、35件の応募がありました。それらの応募に対し外部専門家で構成された委員会による書類審査と面接審査を実施し、その結果を基に6件の新規課題を採択しました。

今後、契約などの条件が整い次第、研究開発を開始する予定です。

本プログラムの詳細については下記ホームページをご覧ください。

URL：<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/deeptech/index.html>

### <添付資料>

別紙：大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-GlobaI） 採択課題一覧（令和6年度審査分）

参考：大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-GlobaI） 概要

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

桑田 真宏（クメタ マサヒロ）

E-mail：[start@jst.go.jp](mailto:start@jst.go.jp) ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

### <科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

大学発新産業創出基金事業  
 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-G l o b a l)  
 採択課題一覧 (令和6年度審査分)

課題名	事業化推進機関※ <sup>1</sup>	研究代表者※ <sup>2</sup>	課題概要
低分子がん創薬 マジック Magic ブレット Bulletの開発とグローバル展開	株式会社ビジョン インキュベイト	筑波大学 数理物質系 教授 長崎 幸夫	抗体をしのぐ腫瘍集積性を有し、副作用が劇的に低減された抗がん剤「低分子Magic Bullet」を開発し、がん患者を救い、がん治療における社会課題を解決するグローバルスタートアップの設立を目指す。
低張浸透圧バイオフィルム殺菌技術を用いた医療機器開発と国際展開	株式会社東京大学 エッジキャピタル パートナーズ	物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料 研究センター グループリーダー 岡本 章玄	新原理の低張浸透圧バイオフィルム殺菌技術を活用して、整形外科インプラント感染および創傷感染に対する治療機器を開発し、展開するグローバルスタートアップの設立を目指す。
既存分子標的薬不応性のチロシンキナーゼ高発現がん、および小胞体ストレス脆弱(ぜいじゃく)性がんを治療対象とした新規ARF/GEF阻害経口低分子抗がん剤の開発	三菱UFJキャピタル株式会社	東京理科大学 理学部第一部 応用 化学科 教授 椎名 勇	従来の分子標的抗がん剤では治療が困難ながん的一种である「チロシンキナーゼ高発現TKI不応がん」「小胞体ストレス脆弱性がん」を対象として、ARF/GEF阻害の新しいメカニズムによる経口低分子抗がん剤の開発を進め、その製造手段を中核技術とするスタートアップの設立を目指す。

課題名	事業化推進機関※ <sup>1</sup>	研究代表者※ <sup>2</sup>	課題概要
革新的分離技術によるホワイトリグニン創出と高付加価値バイオマス製品の開発	Beyond Next Ventures株式会社	京都大学 生存圏研究所 特定准教授 西村 裕志	革新的な植物バイオマスの分離技術を活用して、高純度ホワイトリグニンを創製し、高付加価値新素材として用途展開をすることで、バイオマスを基幹とした循環型社会を実現するスタートアップの設立を目指す。
ナノ粒子を用いた新規構造色インク・塗料の開発及び事業化推進	ANRI株式会社	神戸大学 大学院工学研究科 准教授 杉本 泰	構造発色ナノ粒子の技術を活用して、「軽い・薄い・強い」を実現する革新的な構造色インク・塗料を開発し、量産技術の確立と事業開発を進めることで、グローバルで戦えるマテリアルスタートアップの設立を目指す。
特発性肺線維症治療薬の国際展開に向けた研究開発	大鵬イノベーションズ合同会社	岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 教授 阪口 政清	有効な治療法がない特発性肺線維症や炎症性疾患などの難治性疾患に対して、新たな作用メカニズムに基づく独創的かつファースト・イン・クラス※ <sup>3</sup> の抗体医薬を創製・開発するスタートアップの設立を目指す。

※1 事業化推進機関が複数の場合は代表事業化推進機関を記載

※2 研究代表者の所属・役職は応募時点

※3 新規性や有用性が高いなど、これまでの治療体系を大きく変え得る独創的・画期的な医薬品のこと

## 大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-G l o b a l） 概要

### 1. 大学発新産業創出基金事業の趣旨

大学発新産業創出基金事業は、スタートアップ育成5か年計画（令和4年11月政府発表）などを踏まえ、日本における大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした産学官共創による大学等発スタートアップ創出支援などの実施を可能とする環境の形成を推進します。

### 2. ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム（D-G l o b a l）について (1) 概要

本プログラムはディープテックの技術シーズを核に国際市場への展開を目指す大学等発スタートアップの創出に向けて、概念実証以降のステップに入ることが適切と判断され、審査を経て採択された課題の事業開発と研究開発を支援します。

採択課題は、技術シーズの事業開発に責任を有する事業化推進機関および研究開発に責任を有する研究代表者が共同代表者となる体制をとり、事業化推進機関のプロジェクトマネジメントのもと、社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルのあるディープテック・スタートアップの創出を目指した取り組みを推進します。

#### (2) 研究開発期間

最長3年程度（令和9年11月末まで）

#### (3) 研究開発費（研究開発期間総額、直接経費）

原則3億円程度まで

※正当な理由がある場合、上限5億円

以上